

令和4年度 自己評価書

学校園名 附属世田谷中学校

1 学校経営計画

別紙のとおり。

2 自己評価

領域	重点目標・具体的取組	達成状況・成果と課題	評価	今後の改善方策	学校関係者評価を踏まえた今後の改善方策
学校運営	<p>○学校行事等については、新型コロナウイルス感染症等の不測の事態に臨機応変に対応することを前提とした活動計画を作成する。</p> <p>○ICT ツールを効果的に活用し、業務の円滑化を図る。</p> <p>○昨年度の学校行事等の実施内容及び成果をふまえて、活動内容の精選を行う。</p> <p>○「いじめ防止基本方針」に則り、いじめの未然防止、早期発見に努めるとともに、情報の共有化を</p>	<p>○昨年度の経験をふまえて、どの活動についても感染拡大状況に合わせた複数の実施案を準備し、感染状況をふまえて臨機応変に対応することができた。行事等については、内容を検討し、適切な計画案を選択することで可能な限り実施できた。</p> <p>○Teams の活用が定着し、業務の円滑化が進められている。従来よりも情報共有がしやすくなった。</p> <p>○ICT 活用 WG を委員会にし、様々な観点から必要な対応について活動を行った。</p> <p>▼蓄積されていくデータの管理が課題となっている。</p> <p>▼学校事務との連携の円滑化が課題である。</p> <p>○昨年度から活動の精選を含めた新たな在り方の検討を開始し、オリエンテーションキャンプと林間学校については、従来の計画を全面的に見直し、今年度はオリキャンは都内での宿泊行事に、また林間学校はSDG's スタディーツアーとして、新たに実施した。</p> <p>○テーマ研究については、令和5年度実施を目指して抜本的な見直しをすべく、検討を行った。</p> <p>○生徒指導案件については、「適切な初期対応」と「組織的対応」を徹底して心掛けた。</p>	A	<p>○さらに全教職員の学校経営への参画を進める。</p> <p>○新型コロナウイルス感染症がある程度落ち着いた後も、不測の事態に臨機応変に対応することを前提とした学校運営を継続する。</p> <p>○ICTの効果的活用をさらに進めていくためには、さらなる環境整備やルール等の見直しが必要である。多角的な視点から業務の円滑化に努める。</p> <p>○今年度実施の反省を生かし、引き続き、行事等の精選、改善について検討を進めていく。</p> <p>○テーマ研究についての議論を深め、生徒の主体的学びを深める機会をより多く提供できるよう、システムづくりを進めていく。</p>	<p>・学校評価と個人評価の整合性を高め、教員の学校経営への参画意識を高める。</p> <p>・ICT活用は業務円滑化、改善に欠かせないため、学校事務との連携を進める。</p> <p>・成果と課題を生徒の立場からも考察、検証する。</p>

	<p>図り、迅速かつ適切な対応ができるような仕組みを整備する。</p> <p>○ICT ツールを効果的に活用して積極的に学校情報を広く発信し、本校の認知度と信頼感を高める。</p> <p>○生徒及び保護者に対して、迅速かつ確かな情報提供を実施する。</p>	<p>○いじめについては、新型コロナウイルス感染症に関わる差別的行為が発生しないよう、未然防止策に努めた。</p> <p>○学校HPの「ふかさわだより」についてはフェイスブックを始め、更新が早くなった。</p> <p>▼HPの抜本的な見直しが必要であると考えているが着手できずにいる。</p> <p>○授業や行事などは感染状況も考慮しながら、保護者の参加を少しずつ広げてきたが、元の形にはできていないため、来年度は以前の形に戻していきたい。</p> <p>○学校通信「世中だより」についても、より分かりやすいものにしていくよう改善していく。</p>		<p>○いじめの早期発見・対応に向け、組織体制をさらに整備していくとともに、教員の研修等を行う。</p> <p>○不登校生徒への対応をさらに組織的に進める。</p> <p>○ICTを効果的に活用した学校広報活動の取組を積極的かつ継続的に行っていく。</p>	<p>・保護者の参観の機会を増やす。学校の様子を知るための情報発信等を改善する。</p>
教育活動	<p>○生徒の学習の実現状況を適切に把握しつつ、その分析・検証を通じ、常に授業改善に取り組む。</p> <p>○いじめの発生を未然に防止するため、生徒一人一人の自己有用感を高め、自尊感情や他者への思いやりを育む教育活動を全校集会、授業、特別活動、生徒会活動等で推進する。</p> <p>○各教科等で育成する資質・能力を明確にしつつ、「深い学び」を実現する授業を行うとともに、学校図書館と連携した授業づくりに取り組む。</p>	<p>○多くの授業で生徒による振り返りを実施し、状況把握に努めた。Formsを効果的に活用している。</p> <p>○学期ごとにSOSシートによるいじめの未然防止に取り組み、小さな変化を見逃さないように学校全体で取り組んだ。</p> <p>人権意識を高めるための講話を昼礼で行った。</p> <p>▼生徒会や生徒自らが取り組む活動があまりできなかった。</p> <p>○学校図書館を活用した授業は多く展開されている。司書教諭も図書館を利用した授業づくりに関する様々なアイデアを提供し、教員とよい連携が取れている。</p>	A	<p>○Q-U調査結果をより効果的に活用し、生徒の状況を把握し、学級経営、学年経営に生かす。</p>	<p>・進路について、必要な情報は1・2年生からも伝えらるとともに3年間の進路の計画を示す。</p> <p>・生徒一人一人の人権意識を高める取り組みを全教育活動で計画的に進める。</p> <p>・生徒の学びを推進する視点からも学校図書館と連携した授業づくりを続ける。</p>
研究活動	<p>○学校研究として、本校で育みたい力を明確にし、その資質能力を育むための手立てを開発する。</p> <p>○教科指導の研究の深化を図るとともに、カリキュラムマネジメントの視点から教科横断的な指導の充実を図る。</p>	<p>○学校研究のテーマを「情報活用能力を育むモデル単元の開発ー資質・能力をベースとした教科横断による実践を通してー」と設定し、本校で育てたい「情報活用能力」とはどのようなものか、それを教科特性を生かしながらいかに育んでいくか、そのモデル開発に取り組んだ。まだ不十分ではあるが教科横断の視点を含め、少し</p>	A		

	<p>○教育研究の成果を公開研究会（6月実施）や研究紀要（年度末）、関係学会等で公表する。特に世田谷区や近隣区と連携を推進していく。</p> <p>○授業研究会（年2回）や校内研究会（原則月1回）などの実施を通して、教科内容や活動方法等について点検と配慮をおこなう。</p>	<p>ずつであるが進められている。学校研究ともつなげ、校内授業研究会を実施することができた。異なる教科同士での意見交換が効果的だった。</p> <p>○公開研究会を6月に対面で実施した。200名の参加を得た。以前ほどではないが広く全国から参加者が来校した。次年度も対面での実施を企画しているが、オンライン実施から学んだことも生かしていく。</p> <p>○「教育と研究」年2回発行、保護者及び、近隣の中学校へ配付した。</p> <p>○校内授業研究会を実施した。</p>		<p>○オンラインによる公開研究会等も一つの形態として、今後も活用の在り方を模索していく。</p> <p>○公開研の参加者増に向けて、広報活動等を改善する。特にホームページに最新の研究成果を掲載するなどを積極的に進める。</p>	<p>・対面も重要であるが、オンラインでより広く多くの発信公開することでハイブリッドで柔軟な方法を進める。</p>
<p>学生の教育・支援活動</p>	<p>○多様な実施状況にも対応できる受け入れ態勢を整備する。</p> <p>○個々の実習生の状況を的確に把握し、適切かつ効果的な指導を行う。</p>	<p>○ほぼ通常通りの実習が行えた。在宅、時差通勤、オンライン等々の状況にも適切に対応した。</p> <p>○実習生の状況を的確に把握することに努め、過度な指導がないよう心掛けた。</p>	A	<p>○コロナ禍での教育実習について、実施方法の選択肢を広げていくとともに、内容の精選やコミュニケーションの在り方等、さらに検討していく。</p>	<p>・○大学との連携をさらにすすめ、実施後の効果測定等も検討する。</p>
<p>社会貢献活動</p>	<p>○大学と連携し、実践的・開発的な現職教員研修を夏季と春季の2回、今まで実施していない教科でも積極的に実施する。</p> <p>○参加者の研修成果の活用について、その状況を積極的に把握することにより研修内容の充実・改善に取組み、学校の特色化を図る。</p>	<p>○現職教員研修は、昨年度より積極的に実施した。教科によっては定期的に開催している。対面も再開し、オンラインを併用して実施している。</p> <p>▼研修実施直後の感想等は調査しているが、その後の成果の活用については調査できていない。</p>	A	<p>○オンラインでの実施を含め、より多様な現職研修の在り方を模索していく。</p>	<p>・世田谷区内の学校との連携を模索する。</p>